

## 5 . 外国語学部

平成15年度の外国語学部は、従来の3学科を発展的に統合する形で一昨年4月よりスタートした新学科である外国語学科が3年目をむかえ、ゼミナールが必修の形で開始されるなど新カリキュラムによる学習効果の徹底が図られた。また、大学全体の取り組みの一環として、学生による授業評価アンケートが本格的に実施され、この結果を有効に活用することで、教育の質的向上へのさらなる努力が重ねられた。入学試験に関しては、昨年の入学センター開設以来、試験の実施体制の合理化が進められたが、全入学者に占める推薦入学者が増加しており、こうした入学者に対する教育効果に関して、学部としても責任を持つべく事前学習の充実などが図られた。八王子キャンパスにおける教育活動の将来構想を考える大学改革プロジェクト委員会が11月にスタートしたが、外国語学部でもこれに連動する形で、学部教育のさらなる拡充と入学志願者数の増加、およびその質的向上をめざした検討委員会が組織され、カリキュラム改革を中心に集中的な討議に入った。

こうした15年度の学部内外の状況を踏まえ、以下、1) 教務部関係、2) 学生部関係、3) 教員の業績、4) その他、の4項目に分けて、平成15年度外国語学部の主たる動向をまとめ、自己点検・自己評価の資とした。

### 1) 教務部関係

新学科発足に伴う新カリキュラムが3年目を迎えた平成15年度、1年生の専門外国語科目の履修概況は、英語が78%、中国語が12%、日本語が10%（秋学期入学者等を含んだ合計）で、14年度とほぼ同様であり、この比率が本学部入学者の専門外国語科目履修の基本的傾向と考えることができよう。中国語および日本語の履修者については、入学試験の工夫やオリエンテーション時の留学生指導の充実などによって、引き続き一定数を確保していく必要がある。履修者の多い英語科目については、昨年同様、13クラス体制で臨み、本学部の特色である少人数制と習熟度別指導の維持に努めた。なお、専門科目群の履修が本格化する2年生の履修概況は、A群（情報・言語・文化）が6%、B群が41%（英語・英米研究）、C群（中国語・中国研究）が6%、D群（日本語・日本研究）が20%、E群（国際観光・国際関係・地域圏研究）が25%（複数専門科目群履修者は約2%）となっており、B群とE群を専門とする学生が多いという傾向が続いている。B群にあっては、特に1年次に履修できる専門科目が少なかったこともあり、本年度は履修指導を行うことで、「実務英語」や「英語文法」など2年次以降に配当されている科目に関しても、部分的に1年生の履修を認め、学生の学習意欲向上を図った。なお、各群の学科目責任者を中心に、非常勤講師も含めて適宜ミーティングを開催しており、学生の学習状況や各学科目の進捗などについて、必要な情報交換を継続的に行っている。

新カリキュラム3年目を迎えた本年度は、ゼミナールが必修の形で開始された。これは、ゼミナールという少人数教育のメリットを全学生が享受できるようにするものであるが、同時に、従来の徹底した少人数のゼミナール教育の方法を幾分変更する必要も生じた。学生にゼミナール教育の趣旨を徹底させるとともに、各担当者の教育方法や卒業研究指導のあり方について、さらなる改善が望まれる。

入学試験については、昨年以降、指定校推薦入学者の比率が増加した。従来に比べ、比較的早い時期に本学部への入学が決定した者については、本学部での学習をより円滑に進めるための導入教育が効果的である。本年度は、従来の添削指導や事前合宿などを抜本的に見直し、英文暗記や読書レポート指導の徹底などによって、推薦入学者に対する責任ある事前学習指導の強化を図った。

新カリキュラムの完成は平成16年度である。今後とも、各年次の学生の学科目履修状況を注視し、有効な学力分析を継続すると共に、専門科目の配当年次などを吟味しながら履修・学習指導を徹底させ、併せて新カリキュラムの教育効果が学生の適切な就職・進路選択にもつながるよう努めたい。

## 2) 学生部関係(留学関係を含む)

学生部では、学籍管理、課外活動の指導、福利厚生などを軸に、学生生活の基盤整備につとめている。以下この3点を中心に、平成15年度の学生生活に関する状況を要約する。

### (1) 学籍管理に関して

学科改組により、現在、外国語学科と旧3学科が並存している。(学生数については資料1参照)経済的な問題や他大学への進路変更に伴う退学者、および学納金未納者も少なくないが、③にも記したように、奨学金の充実を図り、また進路等に関する本学部内での適切な指導のためのデータをさらに整備したい。

### (2) 課外活動の指導

課外活動の中心であるクラブ、同好会とその部員数については資料2の通りであるが、学生のニーズの多様化やアルバイトなどに時間を取られるため、こうした団体に所属する学生数に減少傾向が見られる。授業以外の学生生活の受け皿をどのように整備していくか、更に検討を重ねたい。また、八王子キャンパス内のスポーツ施設などに一部老朽化したものもあり、これらの改善も望まれる。10月に行われた学園祭(杏園祭)では、従来少なかった本学部ゼミナールの参加が増え、また、スピーチコンテストや外国語劇など、学部の特色を活かした催しも行われた。こうした活動への支援体制も更に充実させたい。

### (3) 福利厚生

平成15年度の奨学金受給状況は、資料3の通りである。現今の社会情勢を反映し、学業の継続が経済的に困難になる者も少なくないので、奨学金制度を本学全体で見直し、経済的困窮者を広く救う新しい杏林大学奨学金制度がスタートした。このほかにも、企業指定奨学金の開拓などを進めていく必要がある。学生支援機構(旧日本育英会)の奨学金に関しては、貸与ではなく給付を望む学生が多く、希望者の適切な配分のあり方を検討していく必要がある。また、こうした奨学金受給決定に関しては、家計基準と学力基準との適切な組み合わせを検討する必要もある。

学生の健康診断については、オリエンテーション期間の日程調整なども功を奏して、高い受診率を維持したが、なお特に2、3年生に未受診者が目だつ。その必要性を広く周知徹底させるようつとめたい。また、学生生活において精神的な悩みをかかえる学生も増える傾向にあることから、教職員やカウンセラーによる支援体制をさらに整えて行きたい。

### (4) その他

平成15年度には、世界的に大きな問題となった、いわゆるSARSの流行があり、国際交流センターや学生部を中心にその対応に追われたが、香港中文大学への交換留学派遣中止や中国河北大学に留学中の学生の帰国指示などを、3月末から4月というかなり早い段階で決断したことにより、大きな混乱もなく事態に適切に対応することができた。なお本年度は、学生やご父母のご理解を得て、夏期休業中の海外研修など、予定されていた海外への留学や語学研修を全て自粛した。

平成15年度にはまた、健康増進法の制定に伴う八王子キャンパスの取り組みとして、建物内での喫煙を原則として禁止し、屋外の喫煙場所を限定的に設置する方向で検討が進められた。教職員および学生の共通理解のもと、キャンパスでの生活環境の維持とマナーの向上を図りたい。

## 3) 教員の業績

平成15年度外国語学部専任教員の個人業績および所属学会については、『杏林大学外国語学部紀要』第16号(2004)193-202頁に記載されている通りである。(なお、各教員が指導した卒業論文の成果については、同紀

要203 210頁に記録されている。)

平成15年度本学部専任教員の個人研究費配分額は、教授55万円，助教授53万円，講師50万円である。(大学院担当者の加算分を除く。)また本年度は、小山三郎教授を1年間、台湾・国立台湾師範大学へ海外研修派遣した。(研究課題は「台湾現代文学の研究」)なお、研究費用の効果的配分に関する検討が全学的に行われているため、本年度、いわゆる学部プロジェクト研究は実施されなかった。

#### 4) その他

(1) 平成15年度の常置委員会組織については、以下の通りである。

第一委員会(制度): 委員長 藤井明教授, 副委員長 国松昭教授, 他5名。

第二委員会(人事): 委員長 藤井明教授, 副委員長 国松昭教授, 他2名。

第三委員会(学生): 委員長 滝本道生教授, 副委員長 渡辺光恵教授, 他7名。

第四委員会(教務): 委員長 国松昭教授, 副委員長 吉村ケイ子教授, 他5名。

第五委員会(研究): 委員長 梅澤達雄教授, 副委員長 熊谷文枝教授, 他1名。

第六委員会(就職): 委員長 赤井孝雄教授, 副委員長 草場裕教授, 他1名。

第七委員会(研究): 委員長 河原崎幹夫教授, 副委員長 清水邦江教授, 他1名。

なお、第一委員会(制度)には、予算、機器管理、危機管理、FD・授業評価、海外研修などの担当があり、また同委員会下部組織として、広報、入試実施が属している。第三委員会には、卒アル、JEC、同窓会、杏園祭、親睦会の諸担当があり、第四委員会には教職が属している。このほか、入試審議委員、大学自己評価委員、情報センター運営委員、e-learning、入学センター調整委員、国際交流、教職、『杏林大学の現況』作成委員、および専任者会議記録などの諸委員が特別委員として活動している。

(2) SARSの流行や降雪時の休講措置などの事例を通して、昨年度に引き続き本年度も、危機管理と情報の周知徹底に関する体制の整備が、他学部との協調のもと、八王子キャンパス全体で進められた。本学部第一委員会でも危機管理に関する検討が重ねられた。

(3) 八王子キャンパスに関する将来構想を検討する大学改革プロジェクト委員会発足と呼応して、本学部でもカリキュラム改革を中心とする検討会が本年度、のべ13回開催され、一昨年に実施された一学科制新カリキュラム完成後の将来構想が討議された。八王子3学部におけるカリキュラムの合同化(特に語学・一般教養系科目)などの問題も含め、他学部と協調しつつも、本学部の特性を生かした学生教育の更なる充実をめざした取り組みが進められている。

## 資料 1

## 平成15年度外国語学部学生数

2003.5.1現在

学年	学科名	セメスター	定員	男子	留学生	女子	留学生	計	留学生	備 考
1	外国語学科	第1						414	(37)	
		第2					32	(19)		
		小計	290	190	(29)	256	(27)	446	(56)	
	英米語学科	第1						0	(0)	
		第2						1	(0)	
		小計		1	(0)	0	(0)	1	(0)	
	中国語学科	第1						0	(0)	
		第2						0	(0)	
		小計		0	(0)	0	(0)	0	(0)	
	日本語学科	第1						0	(0)	
		第2						0	(0)	
		小計		0	(0)	0	(0)	0	(0)	
	計	290	191		256		447	(56)		
2	外国語学科	第3						339	(41)	
		第4					44	(9)		
		小計	290	149	(18)	234	(32)	383	(50)	
	英米語学科	第3						0	(0)	
		第4						2	(0)	
		小計		2	(0)	0	(0)	2	(0)	
	中国語学科	第3						0	(0)	
		第4						0	(0)	
		小計		0	(0)	0	(0)	0	(0)	
	日本語学科	第3						0	(0)	
		第4						1	(0)	
		小計		1	(0)	0	(0)	1	(0)	
	計	290	152		234		386	(50)		
3	外国語学科	第5						335	(27)	
		第6					0	(0)		
		小計	355	111	(6)	244	(21)	355	(27)	
	英米語学科	第5						4	(0)	
		第6						5	(2)	
		小計		6	(0)	3	(2)	9	(2)	
	中国語学科	第5						1	(0)	
		第6						1	(0)	
		小計		2	(0)	0	(0)	2	(0)	
	日本語学科	第5						5	(3)	
		第6						19	(16)	
		小計		7	(6)	17	(13)	24	(19)	
	計	355	126	(12)	264	(36)	390	(48)		
4	外国語学科	第7		0	(0)	0	(0)	0	(0)	
		第8		0	(0)	0	(0)	0	(0)	
		小計		0	(0)	0	(0)	0	(0)	
	英米語学科	第7						210	(4)	
		第8						23	(3)	
		小計	175	85	(2)	148	(5)	233	(7)	
	中国語学科	第7						54	(2)	
		第8						6	(0)	
		小計	85	25	(1)	35	(1)	60	(2)	
	日本語学科	第7						100	(28)	
		第8						28	(19)	
		小計	115	44	(15)	84	(32)	128	(47)	
	計	375	154	(18)	267	(38)	421	(56)		
英 米 語 学 科		175	94	(2)	151	(7)	245	(9)		
中 国 語 学 科		85	27	(1)	35	(1)	62	(2)		
日 本 語 学 科		115	52	(21)	101	(45)	153	(66)		
合 計		1310	623	(77)	1021	(133)	1644	(210)		

## 5. 外国語学部

## 資料2 平成15年度 クラブ・同好会一覧（外国語学部・総合政策学部）

## 公認クラブ

敬称略

クラブ名	人員内訳				顧問		学生代表	
	保健	総合	外国	総数				
情報メディア研究会	2	9	4	15	社総	武田 耕一	社2	丸山 真澄
軽音楽部	0	16	12	28	社総	長谷川弘子	外2	大庭 啓介
吹奏楽部	16	7	3	26	社総	吉竹 広次	社2	見次 憲
写真部	5	5	5	15	保健	岸 邦和	総1	稲福 孝俊
杏林書道会	1	3	6	10	外語	中村 信幸	総1	三井 雅之
劇団 SAGA	2	4	1	7	外語	今泉 喜一	社2	金杉 慶一
探訪部「ALK」	5	14	5	24	外語	原田 範行	社2	佐藤 純一
柔道部	1	3	7	11	保健	下川 哲徳	外3	中條 勝之
男子バレーボール部	3	2	2	7	社総	岩崎 正洋	保1	広瀬 一将
剣道部	3	4	3	10	社総	遠藤 健哉	外2	大山 敦臣
ラグビーフットボール部	0	9	3	12	社総	高坂 宏一	社3	吉呑 雅志
硬式庭球部	0	13	8	21	社総	新田 敏	社3	市原 一樹
軟式野球部	6	7	1	14	社総	西 孝	総1	山内 浩史
硬式野球部	1	34	0	35	社総	内藤 高雄	社3	釜井 憲史
ベーシックスキー部	0	13	7	20	外語	遠山 菊夫	外2	勝田 栄美
サッカー部	3	19	11	33	社総	青木 健	社2	福島 大輔
ソフトボール部	0	12	2	14	社総	進邦 徹夫	総1	井口 敦夫
ハンドボール部	0	6	3	9	社総	河野 武司	社2	富岡 禎
アメリカンフットボール部	1	11	11	23	社総	田中 信弘	外3	村岡 弘康
社外バドミントン部	5	13	10	28	社総	阿久澤利明	社3	菅野 大樹
女子バレーボール部	3	0	1	4	社総	原田奈々子	外1	鎌賀 千明
男子バスケットボール部	4	16	7	27	外語	詹 満江	社2	井出 篤志
端艇部	4	12	0	16	保健	下川 哲徳	社3	山戸 貴司
ライフセービング部	11	3	2	16	外語	田中 茂彦	社3	岩間 裕誉
チアリーディング部	4	0	4	8	外語	渡辺 光恵	外2	森本真知子
少林寺拳法部	10	3	3	16	社総	武内 成	社3	小林 巧
自転車部	2	16	7	25	外語	金田一秀穂	社3	上島 夕佳
女子バスケットボール部	0	4	10	14	社総	瀬谷ひろ子	外2	嶋田さやか
フィールドアドベンチャー	0	7	3	10	外語	本田 弘之	社2	田中 雅子

## 公認同好会

敬称略

同好会名	人員内訳				部長顧問		学生代表	
	保健	総合	外国	総数				
Wit'Z	0	2	2	4	外語	草場 裕	外2	洲崎 伸義
アジア交流会	0	7	17	24	外語	江田すみれ	社2	三石 宗芳
スピリッツ	0	60	20	80	外語	楠家 重敏	社2	松田 健一
トライアンフアルペンスキー	3	47	43	93	社総	原田奈々子	外2	桑畑 賢也
WHITE FOX（軟式野球）	2	26	3	31	社総	新田 敏	社2	齋藤 誠
アスレチックサークル FEEL	7	6	2	15	社総	笈川 博一	社2	羽田 貴一
VORCE（バレーボール）	4	0	7	11	社総	原田奈々子	外2	高安 美香
ゴルフサークル	0	11	2	13	社総	平松 茂雄	総1	小俣 有輔
テコンドー同好会	0	0	2	2	外語	清水 邦子	外1	山田航一郎

資料2（補足）平成15年度 保健学部クラブ・同好会一覧（含外国語学部生）

敬称略

クラブ名	人員内訳				顧問	保健学生代表	学年
	保健	総合	外国	総数			
バドミントン部	61	1	0	62	山本 寛	高橋 雅仁	保3
男子バレーボール部	5	5	2	12	山本 外憲	片山 奈未	保3
女子バレーボール部	5	1	4	10	田村 高志	鎌賀 千明	保1
硬式庭球部	29	0	4	33	岸 邦和	三浦 宏予	保3
バスケットボール部	33	9	1	43	大嶺 智子	吉村 紗衣	保3
弓道部	16	14	11	41	坂内 久一	塚原 恭	保2
端艇部	3	12	0	15	下川 哲徳	三枝英美子	保2
少林寺拳法部	5	5	3	13	島 幸夫	矢富 聡子	保3
軟式テニス部	32	5	4	41	川澄 岩雄	内山 陽	保2
フットサル	54	4	0	58	関澤 浩一	山中 雄太	保2
軽音楽部	10	11	14	35	久世 順子	前田 研三	保3
吹奏楽団	14	7	3	24	椎名 義雄	山崎 志帆	保3
ボランティア部	48	0	0	48	中竹 俊彦	川崎 瞳	保3

同好会名	人員内訳				顧問	保健学生代表	学年
	保健	総合	外国	総数			
草野球同好会	12	0	0	12	金子 哲也	小張裕美子	保2

## 資料3

平成15年度外国語学部特待生・奨学生・奨学金受給者数

単位：人

	外国語学部
杏林大学特待生	0
杏林大学奨学生	21
杏林大学派遣留学生	0
日本育英会（1種）	79
日本育英会 きぼう21	143
あしなが育英会	1
新潟県	2
福島県	1
授業料減免	207
学習奨励費	37
八王子市留学生奨学金	15
日野市奨学金	3
守谷育英会（留学生）	1
朝日新聞	2
読売新聞	1
毎日新聞	3
合 計	516

## 外国人留学生奨学金および授業減免状況

種別 学部	文部科学省 国費留学生	民間(守谷)	杏林大学奨学金	授業料減免
外国語学部	1	1	21	207

## 外国人留学生民間奨学金等内訳

種別 学部	日本国際教育協会学習奨励費	守谷育英会
外国語学部	37	1